

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-069758

(43)Date of publication of application : 07.03.2003

(51)Int.Cl.

H04N 1/00  
 G06F 3/02  
 G06F 3/023  
 H03M 11/04  
 H04M 1/2745  
 H04M 1/56  
 H04M 11/00

(21)Application number : 2001-256325

(71)Applicant : CANON INC

(22)Date of filing : 27.08.2001

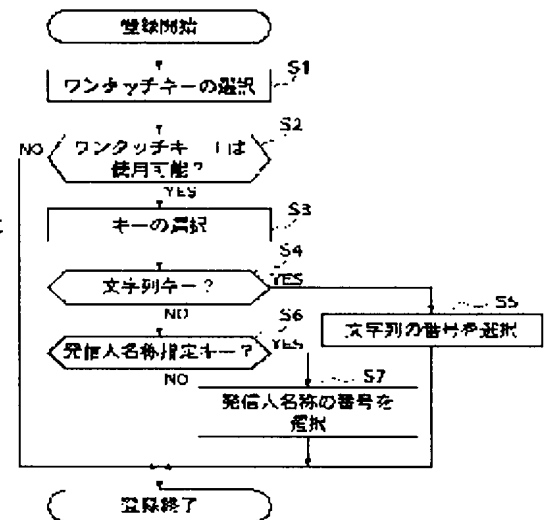
(72)Inventor : OKAYAMA NORITSUGU

(54) ELECTRONIC EQUIPMENT, FACSIMILE MACHINE, CONTROL METHOD FOR FACSIMILE MACHINE, AND CONTROL PROGRAM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a facsimile machine or the like which provides various functions with a small number of hard keys and excludes useless keys just for providing an unwanted function.

SOLUTION: This equipment is provided with a register means with which a first key having a certain function assigned can be recorded in relation to the other second key. By pressing the second key related to the first key, the same operation as the first key can be made realized.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2003-69758  
(P2003-69758A)

(43) 公開日 平成15年3月7日 (2003.3.7)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
H 0 4 N 1/00		H 0 4 N 1/00	C 5 B 0 2 0
G 0 6 F 3/02	3 6 0	G 0 6 F 3/02	3 6 0 G 5 C 0 6 2
	3/023	H 0 4 M 1/2745	5 K 0 3 6
H 0 3 M 11/04		1/56	5 K 1 0 1
H 0 4 M 1/2745		11/00	3 0 2

審査請求 未請求 請求項の数52 O L (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2001-256325(P2001-256325)

(22) 出願日 平成13年8月27日 (2001.8.27)

(71) 出願人 000001007

キヤノン株式会社

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

(72) 発明者 阿山 典嗣

東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤ  
ノン株式会社内

(74) 代理人 100081880

弁理士 渡部 敏彦

Fターム(参考) 5B020 DD02 DD05 FF17 GG22 GG25

5C062 AA02 AA05 AB20 AB42 AC02

AC22 AE08 AF00

5K036 AA15 DD05 DD12 DD48 FF02

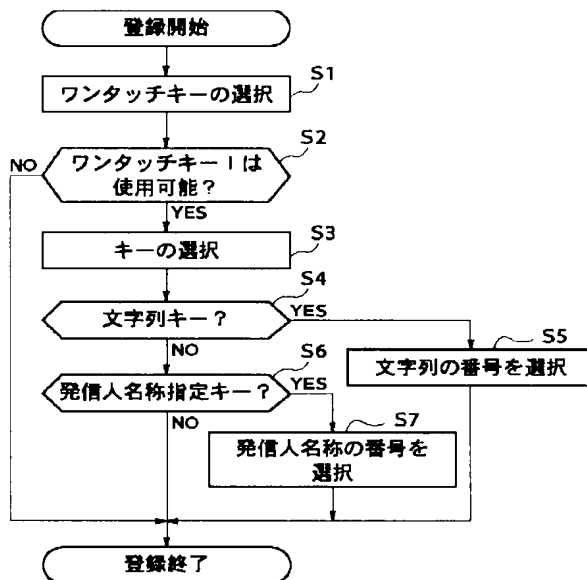
5K101 KK01 NN03 RR12

(54) 【発明の名称】 電子機器、ファクシミリ装置、ファクシミリ装置の制御方法、及び制御プログラム

(57) 【要約】

【課題】 少ないハードキーで多様な機能を実現でき、  
不必要な機能を実現するだけの無駄なキーを排除できる  
ファクシミリ装置等を提供する。

【解決手段】 ある機能が割り当てられた第1キーをそ  
れ以外の別の第2キーに関連付けて記録することができ  
る登録手段を設け、第1キーに関連付けられた第2キー  
を押下することで第1キーと同じ働きをするように構成  
する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 所定の機能が割り当てられた第1キーを該第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録する登録手段と、

前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定の機能を実行する機能実行手段とを備えたことを特徴とする電子機器。

【請求項2】 前記第2キーは、当該電子機器にハード的に備えられたハードキーであり、前記第1キーは、前記ハードキーとして存在しない仮想的キーを含むことを特徴とする請求項1記載の電子機器。

【請求項3】 所定の文字列を前記第1キーに関連付けて登録する文字列登録手段を有し、

文字入力オペレーション時に、当該第1キーに関連付けられた前記第2キーを操作して、当該第1キーと関連付けられた前記所定の文字列を入力することを特徴とする請求項1または請求項2記載の電子機器。

【請求項4】 前記文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた文字列を入力ことで入力可能な制限文字数をオーバーする場合には、前記第1キーを無効にすることを特徴とする請求項3記載の電子機器。

【請求項5】 前記文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた文字列に制限すべき文字列が含まれる場合は、前記第1キーでの入力を禁止することを特徴とする請求項3記載の電子機器。

【請求項6】 キー操作によりファクシミリ機能を実行するファクシミリ装置において、

所定のファクシミリ機能が割り当てられた第1キーを該第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録する登録手段と、

前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定のファクシミリ機能を実行する機能実行手段とを備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項7】 前記第2キーは、当該ファクシミリ装置にハード的に備えられたハードキーであり、前記第1キーは、前記ハードキーとして存在しない仮想的キーを含むことを特徴とする請求項6記載のファクシミリ装置。

【請求項8】 所定の文字列を前記第1キーに関連付けて登録する文字列登録手段を有し、

文字入力オペレーション時に、当該第1キーに関連付けられた前記第2キーを操作して、当該第1キーと関連付けられた前記所定の文字列を入力することを特徴とする請求項6または請求項7記載のファクシミリ装置。

【請求項9】 前記文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた文字列を入力ことで入力可能な制限文字数をオーバーする場合には、前記第1キーを無効にすることを特徴とする請求項8記載のファクシミリ装置。

【請求項10】 前記文字入力オペレーション時に、前

記第1キーに関連付けられた文字列に制限すべき文字列が含まれる場合は、前記第1キーでの入力を禁止することを特徴とする請求項8記載のファクシミリ装置。

【請求項11】 前記第2キーは、宛先が未登録のワンタッチダイヤルキーを有することを特徴とする請求項6乃至請求項10記載のファクシミリ装置。

【請求項12】 前記ワンタッチダイヤルキーに前記第1キーが関連付けられている場合は、当該ワンタッチダイヤルキーに関連付けて宛先を登録する処理を禁止することを特徴とする請求項11記載のファクシミリ装置。

【請求項13】 発信人名称を登録する発信人登録手段を有し、

前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信予約時に、前記発信人登録手段で登録された発信人名称を選択する処理であることを特徴とする請求項6乃至請求項12記載のファクシミリ装置。

【請求項14】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、通信状況の確認処理であることを特徴とする請求項6乃至請求項13のファクシミリ装置。

【請求項15】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、メモリ内の原稿データの確認処理であることを特徴とする請求項6乃至請求項14記載のファクシミリ装置。

【請求項16】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、親展送信の宛先入力状態に移行する処理であることを特徴とする請求項6乃至請求項15記載のファクシミリ装置。

【請求項17】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、ポーリング受信の宛先入力状態に移行する処理であることを特徴とする請求項6乃至請求項16記載のファクシミリ装置。

【請求項18】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信予約時刻を入力できる状態に移行する処理であること特徴とする請求項6乃至請求項17記載のファクシミリ装置。

【請求項19】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、通信相手先入力時にサブアドレスを入力するモードに移行する処理であること特徴とする請求項6乃至請求項18記載のファクシミリ装置。

【請求項20】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信終了後の通信結果レポートの出力を予約する処理であること特徴とする請求項6乃至請求項19記載のファクシミリ装置。

【請求項21】 前記第2キーと、前記第2キーに関連付けられた第1キーとの対応表を印字することを特徴とする請求項6乃至請求項20記載のファクシミリ装置。

【請求項22】 キー操作によりファクシミリ機能を実行するファクシミリ装置において、

所定のファクシミリ機能が割り当てられた第1キーを該

第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録しておき、前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定のファクシミリ機能を実行することを特徴とするファクシミリ装置の制御方法。

【請求項23】 前記第2キーは、前記ファクシミリ装置にハード的に備えられたハードキーであり、前記第1キーは、前記ハードキーとして存在しない仮想的キーを含むことを特徴とする請求項22記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項24】 文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた前記第2キーを操作して、当該第1キーと関連付けられた所定の文字列を入力することを特徴とする請求項22または請求項23記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項25】 前記文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた文字列を入力ことで入力可能な制限文字数をオーバーする場合には、前記第1キーを無効にすることを特徴とする請求項24記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項26】 前記文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた文字列に制限すべき文字列が含まれる場合は、前記第1キーでの入力を禁止することを特徴とする請求項24記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項27】 前記第2キーは、宛先が未登録のワンタッチダイヤルキーを有することを特徴とする請求項22乃至請求項26記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項28】 前記ワンタッチダイヤルキーに前記第1キーが関連付けられている場合は、当該ワンタッチダイヤルキーに関連付けて宛先を登録する処理を禁止することを特徴とする請求項27記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項29】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信予約時に、予め登録された発信人名称を選択する処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項28記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項30】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、通信状況の確認処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項29のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項31】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、メモリ内の原稿データの確認処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項30記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項32】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、親展送信の宛先入力状態に移行する処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項31記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項33】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、ポーリング受信の宛先入力状態に移行する処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項32記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項34】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信予約時刻を入力できる状態に移行する処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項33記載のファクシミリ装置の制御方法。

10 【請求項35】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、通信相手先入力時にサブアドレスを入力するモードに移行する処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項34記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項36】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信終了後の通信結果レポートの出力を予約する処理であることを特徴とする請求項22乃至請求項35記載のファクシミリ装置の制御方法。

20 【請求項37】 前記第2キーと、前記第2キーに関連付けられた第1キーとの対応表を印字することを特徴とする請求項22乃至請求項36記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項38】 キー操作によりファクシミリ機能を実行するファクシミリ装置の制御方法を実行するための制御プログラムであって、所定のファクシミリ機能が割り当てられた第1キーを該第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録する登録ステップと、

30 前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定のファクシミリ機能を実行する機能実行ステップとを備えたことを特徴とする制御プログラム。

【請求項39】 前記第2キーは、前記ファクシミリ装置にハード的に備えられたハードキーであり、前記第1キーは、前記ハードキーとして存在しない仮想的キーを含むことを特徴とする請求項38記載の制御プログラム。

40 【請求項40】 文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた前記第2キーを操作して、当該第1キーと関連付けられた所定の文字列を入力するステップを備えたことを特徴とする請求項38または請求項39記載の制御プログラム。

【請求項41】 前記文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた文字列を入力ことで入力可能な制限文字数をオーバーする場合には、前記第1キーを無効にするステップを備えたことを特徴とする請求項40記載の制御プログラム。

50 【請求項42】 前記文字入力オペレーション時に、前記第1キーに関連付けられた文字列に制限すべき文字列が含まれる場合は、前記第1キーでの入力を禁止するステップを備えたことを特徴とする請求項40記載の制御

プログラム。

【請求項43】 前記第2キーは、宛先が未登録のワンタッチダイヤルキーであって、該ワンタッチダイヤルキーに前記第1キーが関連付けられている場合に、当該ワンタッチダイヤルキーに関連付けて宛先を登録する処理を禁止するステップを備えたことを特徴とする請求項42記載の制御プログラム。

【請求項44】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信予約時に、予め登録された発信人名称を選択する処理であることを特徴とする請求項37乃至請求項43記載の制御プログラム。

【請求項45】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、通信状況の確認処理であることを特徴とする請求項38乃至請求項44の制御プログラム。

【請求項46】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、メモリ内の原稿データの確認処理であることを特徴とする請求項38乃至請求項45記載の制御プログラム。

【請求項47】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、親展送信の宛先入力状態に移行する処理であることを特徴とする請求項38乃至請求項46記載の制御プログラム。

【請求項48】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、ポーリング受信の宛先入力状態に移行する処理であることを特徴とする請求項38乃至請求項47記載の制御プログラム。

【請求項49】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信予約時刻を入力できる状態に移行する処理であること特徴とする請求項38乃至請求項48記載の制御プログラム。

【請求項50】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、通信相手先入力時にサブアドレスを入力するモードに移行する処理であること特徴とする請求項38乃至請求項49記載の制御プログラム。

【請求項51】 前記第1キーに割り当てられた前記所定のファクシミリ機能は、送信終了後の通信結果レポートの出力を予約する処理であること特徴とする請求項38乃至請求項50記載の制御プログラム。

【請求項52】 前記第2キーと、前記第2キーに関連付けられた第1キーとの対応表を印字するステップを備えたことを特徴とする請求項38乃至請求項51記載の制御プログラム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、キー操作により各種の機能を実行するファクシミリ装置等に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、複数のキーを備えたファクシミリ装置では、各キーに関連付けて各種の機能を登録して

おき、キー操作によって対応する機能を実行するようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来のファクシミリ装置においては、ハード的な制約からキーの数に限りがある場合、あまり使われない機能はキーとともに削除される傾向にあった。そのため、キーがないことを理由に、多くの機能を提供できずユーザのニーズに応えることができなかった。

【0004】また、削除されなかったキーも、あるユーザにとっては必要であるが、別のユーザにとっては、不必要な機能を実現するためのものでしかなく無駄なキーとなることもあった。

【0005】本発明は上記従来の問題点に鑑み、少ないハードキーで多様な機能を実現でき、不必要な機能を実現するだけの無駄なキーを排除できるファクシミリ装置等を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の電子機器では、所定の機能が割り当てられた第1キーを該第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録する登録手段と、前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定の機能を実行する機能実行手段とを備えたことを特徴とする。

【0007】本発明のファクシミリ装置では、キー操作によりファクシミリ機能を実行するファクシミリ装置において、所定のファクシミリ機能が割り当てられた第1キーを該第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録する登録手段と、前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定のファクシミリ機能を実行する機能実行手段とを備えたことを特徴とする。

【0008】本発明のファクシミリ装置の制御方法では、キー操作によりファクシミリ機能を実行するファクシミリ装置において、所定のファクシミリ機能が割り当てられた第1キーを該第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録しておき、前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定のファクシミリ機能を実行することを特徴とする。

【0009】本発明の制御プログラムでは、キー操作によりファクシミリ機能を実行するファクシミリ装置の制御方法を実行するための制御プログラムであって、所定のファクシミリ機能が割り当てられた第1キーを該第1キーとは別の第2キーに関連付けて登録する登録ステップと、前記第2キーが操作された時に、当該第2キーと関連付けた前記第1キーに対応する前記所定のファクシミリ機能を実行する機能実行ステップとを備えたことを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に基いて説明する。

【0011】図1は、本発明の実施形態に係るファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。

【0012】同図において、CPU101はシステム制御部であり、装置全体を制御する。ROM102は、CPUの制御プログラムを格納するものであり、後述する図5及び図6で示すフローチャートに基づいて実現される本発明の制御プログラムも格納されている。

【0013】RAM103は、SRAM等で構成され、プログラム制御変数や、各種設定値、装置の管理データ類、各種ワーク用バッファ等が格納される。蓄積メモリ104は、DRAM等で構成され、画像データを蓄積するものである。外部表示部105は、LCDやLED等でユーザに表示通知するためのものである。スピーカ106は、音声によってユーザに通知、警告をしたり、PSTN回線109またはISDN回線111を通して送受している信号音をモニターしたりするものである。

【0014】MODEM107は、ファクシミリの送受信信号の変復調を行うものであり、NCU108は、選択信号（ダイヤルパルスまたはトーンダイヤラ）をPSTN回線（アナログ公衆回線網）109に送出する機能を有し、呼び出し信号の検出による自動着信動作も行う。CCU110はISDN回線（総合デジタル通信網）111と接続するための回線制御を行う。画像処理部112は、読み取られた画像データに補正処理を施して高精細な画像データを出力するものである。

【0015】スキャナ113は、CSイメージセンサや原稿搬送機構などで構成され、原稿を光学的に読み取って電氣的な画像データに変換するものである。操作部114は、キーボードやタッチパネル等で構成され、オペレータが各種入力操作を行うためのものである。プリンタフォーマッタ115は、ワークステーションなど外部機器からのファイルデータのプリントを行う際に、プリンタ記述言語を解析し、画像データに変換するものである。プリンタ116は、受信画像やファイルデータを記録紙に記録する装置である。

【0016】操作部114には複数のワンタッチダイヤルキーがあり、通常、ワンタッチダイヤルキーを押下することで、RAM103にワンタッチダイヤルキーに関連して記録されている宛先を読み出すことが可能になり、送信宛先指定操作を容易にしている。オペレータは、宛先が記録されていないワンタッチダイヤルキーに対し、ワンタッチダイヤルキー以外のキーを選択することで、ワンタッチダイヤルキーとワンタッチダイヤルキー以外のキーの関連情報をRAM103に記録させることができる。

【0017】そこで、選択できるワンタッチダイヤルキー以外のキーには、操作部114に備わっているレポートキー、発信人名称キー、タイマー送信キー、メモリ照

会キー以外にも、操作部114にハードとして存在しない、親展キーやポーリングキー、発信人名称指定キー、文字列キー等がある。

【0018】レポートキーは、出力したいレポートの種類を選択する場合に用いるものである。発信人名称キーは、原稿送信時に装置内に登録されている発信人名称を選択するためのキーである。タイマー送信キーは、原稿送信時に送信したい時刻を入力するためのキーである。メモリ照会キーは、装置内のメモリ104にある原稿データの一覧を表示するためのキーである。

【0019】親展キーやポーリングキーは、親展送信やポーリング送信を簡便にするためのキーであり、送信宛先指定後にFコードやパスワードの入力を促すものである。発信人名称指定キーは、原稿送信時に、装置内に登録されている複数の発信人名称から、その発信人名称キーに関連した1つの発信人名称を指定するキーである。文字列キーは、文字入力オペレーションにおいて、予め登録されており、その文字列キーに関連した文字を入力するためのキーである。

【0020】図2は、ワンタッチダイヤルキーとその関連情報のテーブルの内容を示す図であり、このテーブルはRAM103に登録されている。

【0021】同図に示すように、ワンタッチダイヤルキーの1番には宛先情報が登録されている。すなわち、オペレータは宛先指定時にワンタッチダイヤルキーの1番を押下することで、「0297770123」を送信宛先として容易に選択することができる。

【0022】ワンタッチダイヤルキーの2番は何の登録もされておらず未使用であり、このワンタッチダイヤルキーの3番は「親展キー」と関連付けられており、このワンタッチダイヤルキーの3番が押下されると「親展キー」として機能する。

【0023】ワンタッチダイヤルキーの4番は、「文字列キー」と関連付けられており、このワンタッチダイヤルキーの4番が押下されるとその「文字列キー」に関連付けられた3番の文字列が図3の文字列テーブルより読み取られ、「（株）井野台」が入力される。

【0024】ワンタッチダイヤルキーの5番は、「発信人名称指定キー」と関連付けられており、原稿送信操作時にワンタッチダイヤルキーの5番が押下されるとその「発信人名称指定キー」に関連付けられた4番の発信人名称が図4の発信人名称テーブルより読み取られ、「八重樫」が発信人名称として用いられる。

【0025】図5は、図2のテーブルをRAM103に登録する処理を示すフローチャートである。

【0026】この登録処理、すなわちワンタッチダイヤルキー（1～N）にワンタッチダイヤルキー以外のキーを関連付ける処理は、まずオペレータにより複数のワンタッチダイヤルキー（1～N）の中から所定のワンタッ

チダイヤルキー I が選択される (ステップ S 1)。

【0027】選択されたワンタッチダイヤルキー I に宛先が登録されていれば、そのワンタッチダイヤルキー I にワンタッチダイヤルキー以外のキーを関連付けることができず使用不可能な状態と判断されて (ステップ S 2)、登録終了となる。この場合テーブルは更新されない。

【0028】ステップ S 2 の判断処理でワンタッチダイヤルキー I が使用可能な場合、関連付けたいキーを選択することになる (ステップ S 3)。ここで選択されたキーが「文字列キー」の場合には (ステップ S 4)、さらに図 3 のテーブルから文字列の番号を選択し (ステップ S 5)、選択されたキーが「発信人名称指定キー」の場合には (ステップ S 6)、さらに図 4 のテーブルから発信人名称の番号を選択する (ステップ S 7)。

【0029】そしてこれらの場合、登録終了処理時において、選択されたキーの種類、文字列の番号、及び発信人名称の番号がワンタッチダイヤルキー I に対応して RAM 103 に図 2 のテーブルとして格納される。

【0030】図 6 は、ワンタッチダイヤルキーが押下された場合の処理を示すフローチャートである。

【0031】複数のワンタッチダイヤルキー (1 ~ N) の中から所定のワンタッチダイヤルキーが押下されると、そのワンタッチダイヤルキーに宛先が登録されていれば (ステップ S 11)、通常のワンタッチダイヤルキーとして宛先指定手段に用いられる (ステップ S 12)。また、宛先が未登録であった場合は、宛先未登録のワンタッチダイヤルキーとして扱われる。

【0032】一方、押下されたワンタッチダイヤルキーが別のキーと関連付けられている場合は、そのキーコードに変換され、別のキーが押下されたものとして処理される。

【0033】この場合、別のキーが「発信人名称指定キー」であるときは、どの発信人名称で送信すべきかを明らかにするために、図 4 に示す「発信人名称の番号」を「param1」にセットする。

【0034】「param1」は、どの発信人名称と関連付けられているかを判別するためのもので、例えば 2 つのワンタッチダイヤルキーがどちらも「発信人名称指定キー」に関連付けられている場合、「発信人名称指定キー」のキーコードが 1 つしかないためキーコードだけでは発信人名称を特定することができない。そこで、「param1」によって発信人名称を特定するのである。

【0035】「文字列キー」についても同様で、図 3 に示す文字列の番号を「param2」にセットする。これにより「文字列キー」を受け取った側が入力すべき文字列を特定し読み出すことができる。

【0036】このように本実施形態によれば、ユーザは不必要なキーをよく使用するキーとして使用したり、開

発側は、少ないキーしか配置できなくても多様な機能を持ったファクシミリ装置を実現することができる。

【0037】なお、上述した図 5 及び図 6 のフローチャートに従ったプログラムを ROM 102 に格納し動作することにより、上述の制御方法を実現させることが可能となる。

【0038】本発明は、上述した実施形態の装置に限定されず、複数の機器から構成されるシステムに適用しても、1つの機器から成る装置に適用してもよい。前述した実施形態の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記憶した記憶媒体をシステムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ (または CPU や MPU) が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても、完成されることは言うまでもない。

【0039】この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピー (登録商標) ディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモ리카ード、ROM を用いることができる。また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼動している OS などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0040】さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、次のプログラムコードの指示に基づき、その拡張機能を拡張ボードや拡張ユニットに備わる CPU などが処理を行って実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0041】

【発明の効果】以上詳細に説明したように本発明の電子機器及びファクシミリ装置等によれば、少ないハードキーで多様な機能を実現することが可能になる。また、不必要な機能を実現するだけの無駄なキーを排除し、個々のユーザにとって必要な機能のみを実現するキー設定が可能になる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の実施形態に係るファクシミリ装置の構成を示すブロック図である。

【図 2】ワンタッチダイヤルキーとその関連情報のテー

ブルの内容を示す図である。

【図3】文字列テーブルを示す図である。

【図4】発信人名称テーブルを示す図である。

【図5】図2のテーブルをRAM103に登録する処理を示すフローチャートである。

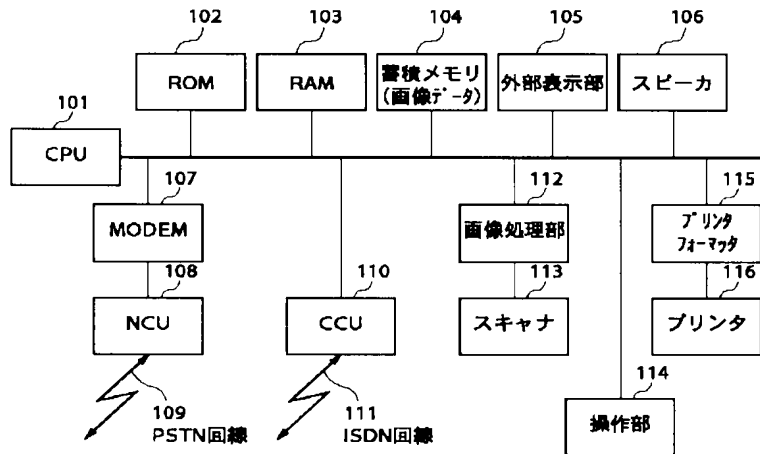
【図6】ワンタッチダイヤルキーが押下された場合の処理を示すフローチャートである。

【符号の説明】

101 CPU  
102 ROM  
103 RAM  
104 蓄積メモリ  
105 外部表示部

\* 105 外部表示部  
106 スピーカ  
107 MODEM  
108 NCU  
109 PSTN回線  
110 CCU  
111 ISDN回線  
112 画像処理部  
113 スキャナ  
10 114 操作部  
115 プリンタフォーマッタ  
\* 116 プリンタ

【図1】



【図3】

文字列の番号	文字列
1	"@AAA.COM"
2	"¥"
3	"(株)井野台"
4	

【図4】

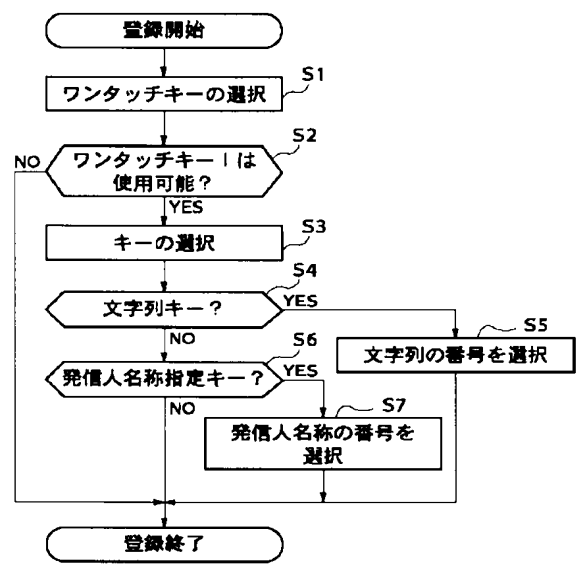
発信人名称の番号	発信人名称
1	"取手事業所"
2	"ソホ31設計"
3	"ジョニー"
4	"八重樫"
5 ⋮ N	"ウイン"

【図2】

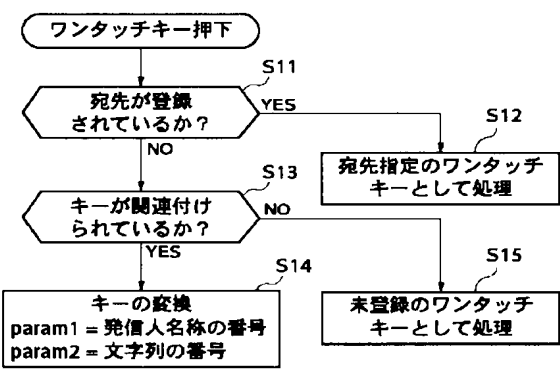
ワンタッチキーの番号	登録状態	キーの種類	キーの補足情報	宛先
1	宛先			0297770123
2	未登録			
3	キー	親展		
4	キー	文字列	3番の文字列	
5	キー	発信人名称指定	4番目の発信人名称	
6	宛先			0312345678
7	未登録			
8	キー	レポート		
9 ⋮ N				



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード(参考)
H 0 4 M 1/56		G 0 6 F 3/023	3 1 0 C
11/00	3 0 2		